



## 「オウム返し+やさしいウソ」のススメ

認知症の患者さんにみられる精神症状・行動症状はBPSD(認知症の行動・心理症状)と呼ばれ、中核症状である認知機能障害とは別にご本人の生活の質を低下させたり、介護負担を増やす原因になります。BPSDには幻覚、妄想、興奮、不穏、徘徊、焦燥、社会的に不適切な言動、性的逸脱行為、暴言、抑うつなどが含まれます。

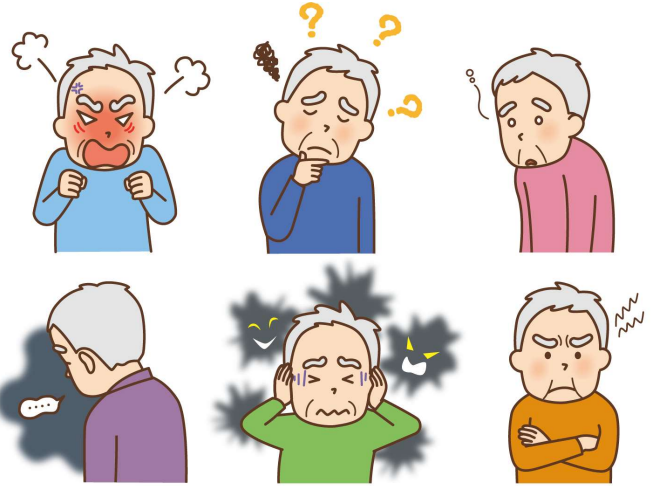
認知症当事者は、以前できていたことができなくなってきたり、「どこかおかしい？」と気づいてはいるんですが、そういう自分を認めたくない時期でもあり、そのような「心の葛藤」が周りに影響を及ぼします。

この時期は、身体も動ける状況のため、徘徊してしまったり、身の危険につながるような行動をしてしまうことも多くあるため、周りのみなさんにはかなりの心労が重なります。

認知症当事者が「財布が盗まれた」と大騒ぎになったというお話は、もはや認知症世界では「必ず一度は通る道」と言われているようなトラブルです。



最初は大変かもしれませんが、認知症当事者の行動パターンを把握してくれば「推察」ができるようになってきて、「やさしいウソつき」のレポーターも充実してくるといえるものです。大丈夫ですよ。



そのようなとき、よく「役者のように対応してください」と言われますが、関係が身近であればあるほど、なかなか冷静に対応できなくなってしまうものです。

そういうときにおススメなのが「オウム返し」です。相手を肯定も否定もせず、事情を掘り下げて聞くことで、自分自身も冷静になることができ、解決策を探ることができます。

そのうえで、本人が自発的にアクションを起こせるための「やさしいウソ」も必要です。

カメラで撮影されているような意識をすれば、自然と「役者」のように振舞えるかもしれませんね。

## 「火」と「水」と「夜間の徘徊」に注意!

認知症当事者が自立して動くことができている段階で、特に気を付けなくてはいけないのが、上記の3点です。

「火」は火事を起こす、「水」はお風呂場で溺れる、「夜中の徘徊」は交通事故に遭う、という、いずれも命にかかわる大きなリスクを抱えています。少しでも「おかしい」と感じたら、確認するようにしましょう。

特に徘徊は、当事者なりに「理由を持って」徘徊していることが多いので、事情を掘り下げて聞いてみてください。

私の経験した例では、「施設のお迎えが来る」と、夜中に必死で外に出ようとしていた相手に「さっき日にちが変更になったと、施設から連絡があったよ」と伝えたところ、安心して外出するのをやめてくれたことがありました。



先日参加した、新宿区の認知症カフェ「落合らんぶカフェ」(毎週第三木曜開催)で知り合った方から、ホスト経験者の方が新宿歌舞伎町のホスト・クラブを会場として、カラオケのデイ・サービスを展開していることを知り、興味津々です。

こちらは毎月第二火曜日に開催されているとのことで、一度お邪魔してみたいと思っています。

開催情報は今後LINEでお知らせしますので、少しでも興味持たれたそのアナタ!ぜひ一緒にしましょう!楽しみにしています♪(たいこん)

★参加無料★「コラルトの認サポ」大好評開催中!  
次回開催は2024年9月28日(土)18:00~19:30です!  
※お申込は右のコラルト公式LINEのQRコードから、お気軽にどうぞ!  
公式WEBからもお申し込み可能。(本新聞のバックナンバーも是非ご覧ください!)

コラルトWEB



公式LINE

